

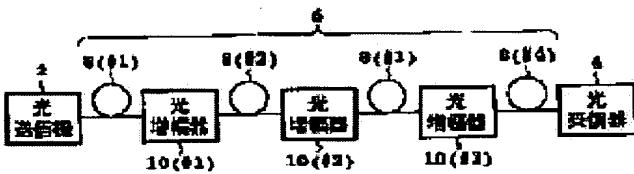
## METHOD AND SYSTEM FOR OPTICAL TRANSMISSION APPLIED WITH DISPERSION COMPENSATION

**Patent number:** JP2000236297  
**Publication date:** 2000-08-29  
**Inventor:** TSUDA TAKASHI; YAMANE KAZUO; KAWASAKI YUMIKO; OKANO SATORU  
**Applicant:** FUJITSU LTD  
**Classification:**  
- **international:** H04B10/02; H04B10/18; H04B10/17; H04B10/16  
- **european:**  
**Application number:** JP19990037837 19990216  
**Priority number(s):**

### Abstract of JP2000236297

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a method and a system which make it easy to design a dispersion compensator for a method and a system for optical transmission applied with dispersion compensation.

**SOLUTION:** An optical transmission line 6 consists of sections 8, having length within a predetermined range respectively. An optical transmitter 2, which supplies a light signal to the transmission line 6, is provided at one end of the transmission line 6. An optical receiver 4, which receives the light signal from the transmission line 6, is provided at the other end of the transmission line 6. An optical amplifier 10 is provided between two adjacent sections 8. The dispersion compensator(DC) is provided incidental to each of the optical transmitter 2, optical receiver 4, and optical amplifiers 10. The dispersion compensator (DC) obtains a dispersion value selected from among stepwise dispersion values which are determined according to predetermined ranges.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-236297

(P2000-236297A)

(43)公開日 平成12年8月29日 (2000.8.29)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

H 04 B 10/02  
10/18  
10/17  
10/16

識別記号

F I

テマコード<sup>\*</sup>(参考)

H 04 B 9/00

M 5 K 0 0 2  
J

審査請求 未請求 請求項の数24 O.L. (全 11 頁)

(21)出願番号 特願平11-37837

(22)出願日 平成11年2月16日 (1999.2.16)

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番  
1号

(72)発明者 津田 高至

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番  
1号 富士通株式会社内

(72)発明者 山根 一雄

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番  
1号 富士通株式会社内

(74)代理人 100075384

弁理士 松本 昂

最終頁に続く

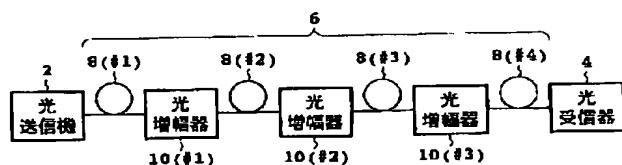
(54)【発明の名称】 分散補償が適用される光伝送のための方法及びシステム

(57)【要約】

【課題】 本発明は分散補償が適用される光伝送のための方法及びシステムに関し、分散補償器の設計が容易な方法及びシステムの提供を主な課題としている。

【解決手段】 各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の区間8からなる光ファイバ伝送路6が提供される。伝送路6に光信号を供給する光送信機2が伝送路6の一端に設けられる。伝送路6からの光信号を受ける光受信機4が伝送路6の他端に設けられる。各隣り合う2つの区間8の間に光増幅器10が設けられる。光送信機2、光受信機4及び光増幅器10の各々に付随して分散補償器DCが設けられる。分散補償器DCは、各予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を提供する。

本発明によるシステムの実施形態を示すブロック図



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 分散補償が適用される光伝送のための方法であって、

(a) 各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の区間からなる光ファイバ伝送路を提供するステップと、

(b) 上記光ファイバ伝送路に光信号を供給する光送信機を上記光ファイバ伝送路の一端に設けるステップと、

(c) 上記光ファイバ伝送路からの上記光信号を受ける光受信機を上記光ファイバ伝送路の他端に設けるステップと、

(d) 各隣り合う2つの上記区間の間に光増幅器を設けるステップと、

(e) 上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器の各々に付随して分散補償器を設けるステップとを備え、上記分散補償器は、上記各予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択される分散値を提供する方法。

【請求項2】 請求項1に記載の方法であって、上記各区間は概ね1.3μmの零分散波長を有するシングルモードファイバからなる方法。

【請求項3】 請求項1に記載の方法であって、上記光信号は概ね1.55μmの波長を有している方法。

【請求項4】 請求項1に記載の方法であって、上記光信号は波長分割多重された異なる波長を有する複数の光信号からなる方法。

【請求項5】 分散補償が適用される光伝送のための方法であって、

(a) 各々シングルモードファイバからなる少なくとも1つの第1の区間と各々分散シフトファイバからなる少なくとも1つの第2の区間とを含む光ファイバ伝送路を提供するステップと、

(b) 上記光ファイバ伝送路に光信号を供給する光送信機を上記光ファイバ伝送路の一端に設けるステップと、

(c) 上記光ファイバ伝送路からの上記光信号を受ける光受信機を上記光ファイバ伝送路の他端に設けるステップと、

(d) 各隣合う2つの上記区間の間に光増幅器を設けるステップと、

(e) 上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器のうち上記第2の区間の少なくとも一端に対応する各々を除き分散補償器を付随して設けるステップとを備えた方法。

【請求項6】 請求項5に記載の方法であって、上記シングルモードファイバは概ね1.3μmの零分散波長を有し、

上記分散シフトファイバは概ね1.55μmの零分散波長を有する方法。

【請求項7】 請求項5に記載の方法であって、

上記光信号は概ね1.55μmの波長を有している方法。

【請求項8】 請求項5に記載の方法であって、上記光信号は波長分割多重された異なる波長を有する複数の光信号からなる方法。

【請求項9】 分散補償が適用される光伝送のためのシステムであって、各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の区間からなる光ファイバ伝送路と、

10 上記光ファイバ伝送路にその一端から光信号を供給する光送信機と、

上記光ファイバ伝送路の他端からの上記光信号を受ける光受信機と、各隣り合う2つの上記区間の間に設けられる光増幅器と、

上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器の各々に付随して設けられる分散補償器とを備え、

上記分散補償器は、上記各予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を提供する方法。

20

【請求項10】 請求項9に記載のシステムであって、上記各区間は概ね1.3μmの零分散波長を有するシングルモードファイバからなるシステム。

【請求項11】 請求項9に記載のシステムであって、上記光信号は概ね1.55μmの波長を有しているシステム。

【請求項12】 請求項9に記載のシステムであって、上記光送信機は、電気信号を上記光信号に変換するE/O変換器と、上記光信号を増幅するポストアンプとを含み、

30

上記分散補償器は上記E/O変換器と上記ポストアンプの間に設けられるシステム。

【請求項13】 請求項9に記載のシステムであって、上記光増幅器はカスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器を含み、

上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【請求項14】 請求項9に記載のシステムであって、上記光受信機は、上記光信号を増幅するプリアンプと、

40

上記光信号を電気信号に変換するO/E変換器とを含み、

上記分散補償器は上記プリアンプと上記O/E変換器の間に設けられるシステム。

【請求項15】 請求項9に記載のシステムであって、上記光送信機は、各々電気信号を上記光信号に変換する複数のE/O変換器と、カスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器と、上記複数のE/O変換器にそれぞれ接続される複数の入力ポート及び上記前段増幅器に接続される出力ポートを有する光マルチプレクサとを含み、

50

上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【請求項16】 請求項9に記載のシステムであつて、上記光受信機は、カスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器と、各々上記光信号を電気信号に変換する複数のO/E変換器と、上記後段増幅器に接続される入力ポート及び上記複数のO/E変換器にそれぞれ接続される複数の出力ポートを有する光デマルチプレクサとを含み、

上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【請求項17】 分散補償が適用される光伝送のためのシステムであつて、

各々シングルモードファイバからなる少なくとも1つの第1の区間と各々分散シフトファイバからなる少なくとも1つの第2の区間とを含む光ファイバ伝送路と、上記光ファイバ伝送路にその一端から光信号を供給する光送信機と、

上記光ファイバ伝送路の他端からの上記光信号を受ける光受信機と、

各隣り合う2つの上記区間の間に設けられる光増幅器と、

上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器のうち上記第2の区間の少なくとも一端に対応する各々を除いて付隨的に設けられる分散補償器とを備えたシステム。

【請求項18】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記各第1の区間は概ね1. 3 μmの零分散波長を有し、上記各第2の区間は概ね1. 55 μmの零分散波長を有するシステム。

【請求項19】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光信号は概ね1. 55 μmの波長を有しているシステム。

【請求項20】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光送信機は、電気信号を上記光信号に変換するE/O変換器と、上記光信号を増幅するポストアンプとを含み、

上記分散補償器は上記E/O変換器と上記ポストアンプの間に設けられるシステム。

【請求項21】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光増幅器はカスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器を含み、

上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【請求項22】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光受信機は、上記光信号を増幅するプリアンプと、

上記光信号を電気信号に変換するO/E変換器とを含み、

上記分散補償器は上記プリアンプと上記O/E変換器の間に設けられるシステム。

【請求項23】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光送信機は、各々電気信号を上記光信号に変換する複数のE/O変換器と、カスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器と、上記複数のE/O変換器にそれぞれ接続される複数の入力ポート及び上記前段増幅器に接続される出力ポートを有する光マルチプレクサとを含み、

10 上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【請求項24】 請求項17に記載のシステムであつて、

上記光受信機は、カスケード接続された前段増幅器及び後段増幅器と、各々上記光信号を電気信号に変換する複数のO/E変換器と、上記後段増幅器に接続される入力ポート及び上記複数のO/E変換器にそれぞれ接続される複数の出力ポートを有する光デマルチプレクサとを含み、

20 上記分散補償器は上記前段増幅器と上記後段増幅器の間に設けられるシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、分散補償が適用される光伝送のための方法及びシステムに関する。

【0002】

30 【従来の技術】 低損失なシリカ光ファイバが開発されたことにより、光ファイバを伝送路として用いる光ファイバ通信システムが数多く実用化されてきた。光ファイバそれ自体は極めて広い帯域を有している。

【0003】 しかしながら、光ファイバによる伝送容量は実際上はシステムデザインによって制限される。最も重要な制限は、光ファイバにおいて生じる波長分散による波形歪みに起因する。

【0004】 光ファイバはまた例えば約0. 2 dB/kmの割合で光信号を減衰させるが、この減衰による損失は、エルビウムドープファイバ増幅器（EDFA）をはじめとする光増幅器の採用によって補償されてきた。EDFAは、シリカ光ファイバが最低損失を与える1. 55 μm帯に利得帯域を有している。

【0005】 しばしば単純に分散と称される波長分散は、光ファイバ内における光信号の群速度が光信号の波長（又は周波数）の関数として変化する現象である。例えば標準的なシングルモードファイバにおいては、1. 3 μmよりも短い波長に対しては、より長い波長を有する光信号がより短い波長を有する光信号よりも速く伝搬し、その結果としての分散は、通常、正常分散と称され

る。この場合、分散（単位は  $\text{ps}/\text{nm}/\text{km}$ ）は負の値となる。1. 3  $\mu\text{m}$  よりも長い波長に対しては、より短い波長を有する光信号がより長い波長を有する光信号よりも速く伝搬し、その結果としての分散は異常分散と称される。この場合、分散は正の値をとる。

【0006】近年、EDFAの採用による光信号パワーの増大に起因して、光ファイバの非線形性が注目されている。伝送容量を制限する最も重要な非線形性は光ファイバで生じる光カーポー効果である。光カーポー効果は光ファイバの屈折率が光信号のパワー又は強度に伴って変化する現象である。

【0007】屈折率の変化は光ファイバ中を伝搬する光信号の位相を変調し、その結果、光波形の立ち上がり及び立ち下がりにおいて周波数（波長）のシフトが生じる。この現象は自己位相変調（self-phase modulation: SPM）として知られている。SPMと伝送路の分散とが相俟って波形歪みが更に大きくなることがある。

【0008】このように、波長分散及びカーポー効果は、伝送距離の増大に伴って光信号に波形歪みを与える。従って、伝送品質を確保した上で光ファイバによる長距離伝送を可能にするためには、波長分散及び非線形性は制御され、補償されあるいは抑圧されることが必要である。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】光ファイバ伝送システムにおいて、分散を補償するための方法として、分散補償器を用いる方法がある。分散補償器は、例えば、光ファイバ伝送路の分散を相殺するような分散値を有する分散補償ファイバ（DCF）を含むように構成される。

【0010】光ファイバ伝送システムの一形態として、各々光ファイバからなる複数の区間を接続し、各接続点に光増幅器を設けてなる線形中継システムがある。この種のシステムにおいては分散補償器は通常複数用いられ、各分散補償器は、光送信機、各光増幅器あるいは光受信機に付随して設けられる。各分散補償器は、それによって与えられる分散値の付加によって光ファイバ伝送路全長の分散値が許容範囲内になるように設計される。そのため、区間毎の光ファイバの長さがばらつく場合には、分散補償器の設計が容易でないという問題がある。

【0011】一方、光ファイバ伝送路として使用される光ファイバの種類には、概ね 1. 3  $\mu\text{m}$  の零分散波長を有するシングルモードファイバ（SMF）や概ね 1. 5 5  $\mu\text{m}$  の零分散波長を有する分散シフトファイバ（DSF）等がある。SMF は 1. 5 5  $\mu\text{m}$  波長帯で低損失ではあるが、この波長帯で比較的大きな分散値（例えば 1 8  $\text{ps}/\text{nm}/\text{km}$ ）を有している。SMF は現在広く敷設されているものであり、WDM（波長分割多重）伝送にも対応することができるものである。DSF は、零分散波長を低損失波長帯である 1. 5 5  $\mu\text{m}$  帯にシフトしたファイバであり、現在における敷設量はまだ少な

い。DSF は、WDM 伝送に際して非線形効果の影響を受けやすい。非線形効果の影響を少なくするために、

1. 5 5  $\mu\text{m}$  波長帯で若干の分散を持たせた NZ（ノンゼロ）-DSF も開発されている。

【0012】このように種々の光ファイバからなる複数の区間が混在する場合にも、分散補償器の配置や分散補償量の配分がシステム設計上重要になり、分散補償器の設計が容易でないという問題がある。

【0013】よって、本発明の目的は、分散補償器の設計が容易な光伝送のための方法及びシステムを提供することにある。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明の第 1 の側面によると、分散補償が適用される光伝送のための方法であつて、（a）各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の区間からなる光ファイバ伝送路を提供するステップと、（b）上記光ファイバ伝送路に光信号を供給する光送信機を上記光ファイバ伝送路の一端に設けるステップと、（c）上記光ファイバ伝送路からの上記光信号を受ける光受信機を上記光ファイバ伝送路の他端に設けるステップと、（d）各隣り合う 2 つの上記区間の間に光増幅器を設けるステップと、（e）上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器の各々に付随して分散補償器を設けるステップとを備え、上記分散補償器は、上記各予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択される分散値を提供する方法が提供される。

【0015】この方法によると、分散補償器は、各区間の予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を有するように構成され得るので、例えば異なる分散値を与える何種類かの分散補償器を準備しておき、区間の長さに応じて選択される分散補償器を適宜その区間に適用することによって、光ファイバ伝送路全長における分散値を容易に許容範囲内に收めることができるので、分散補償器の設計が容易になり、本発明の目的が達成される。

【0016】本発明の第 2 の側面によると、分散補償が適用される光伝送のための方法であつて、（a）各々シングルモードファイバからなる少なくとも 1 つの第 1 の区間と各々分散シフトファイバからなる少なくとも 1 つの第 2 の区間とを含む光ファイバ伝送路を提供するステップと、（b）上記光ファイバ伝送路に光信号を供給する光送信機を上記光ファイバ伝送路の一端に設けるステップと、（c）上記光ファイバ伝送路からの上記光信号を受ける光受信機を上記光ファイバ伝送路の他端に設けるステップと、（d）各隣り合う 2 つの上記区間の間に光増幅器を設けるステップと、（e）上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器のうち上記第 2 の区間の少なくとも一端に対応する各々を除き分散補償器を付随して設けるステップとを備えた方法が提供される。

【0017】本発明の第3の側面によると、分散補償が適用される光伝送のためのシステムであって、各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の区間からなる光ファイバ伝送路と、上記光ファイバ伝送路にその一端から光信号を供給する光送信機と、上記光ファイバ伝送路の他端からの上記光信号を受ける光受信機と、各隣り合う2つの上記区間の間に設けられる光増幅器と、上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器の各々に付随して設けられる分散補償器とを備え、上記分散補償器は、上記各々予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を提供するシステムが提供される。

【0018】本発明の第4の側面によると、分散補償が適用される光伝送のためのシステムであって、各々シングルモードファイバからなる少なくとも1つの第1の区間と各々分散シフトファイバからなる少なくとも1つの第2の区間とを含む光ファイバ伝送路と、上記光ファイバ伝送路にその一端から光信号を供給する光送信機と、上記光ファイバ伝送路の他端からの上記光信号を受ける光受信機と、各隣り合う2つの上記区間の間に設けられる光増幅器と、上記光送信機、上記光受信機及び上記光増幅器のうち上記第2の区間の少なくとも一端に対応する各々を除いて付随的に設けられる分散補償器とを備えたシステムが提供される。

#### 【0019】

【発明の実施の形態】以下添付図面を参照して本発明の望ましい実施の形態を詳細に説明する。

【0020】図1は本発明による光伝送のためのシステムの実施形態を示すブロック図である。このシステムは、光送信機2と、光受信機4と、光送信機2及び4を接続する光ファイバ伝送路（光ファイバスパン）6とを有している。光ファイバ伝送路6は、例えば各々予め定められた範囲内にある長さを有する複数の（図では4つの）区間（セグメント）8（#1～#4）からなる。各隣り合う2つの区間の間には、光信号の損失を補償するための光増幅器が設けられている。具体的には、区間8（#1及び#2）間には光増幅器10（#1）が設けられ、区間8（#2及び#3）間には光増幅器10（#2）が設けられ、区間8（#3及び#4）間には光増幅器10（#3）が設けられている。

【0021】光送信機2は、WDM（波長分割多重）が適用されない1チャネル伝送である場合には、1チャネルの光信号を光ファイバ伝送路6に送出し、WDMが適用される場合には、異なる波長を有する複数の光信号を波長分割多重してなるWDM信号光を光ファイバ伝送路6に送出する。光受信機4は光ファイバ伝送路6からの光信号又はWDM信号光を受ける。

【0022】図2の（A）、（B）及び（C）はそれぞれ1チャネル伝送における光送信機2、各光増幅器10及び光受信機4の構成例を示すブロック図である。光送

信機2は、図2の（A）に示されるように、伝送データに対応する電気信号を光信号に変換するE/O（電気/光）変換器12と、光信号を増幅するポストアンプ14とを含む。増幅された光信号は、出力ポート16から光ファイバ伝送路6の第1区間8（#1）に送出される。ここでは、分散補償器DCはE/O変換器12とポストアンプ14との間に設けられている。

【0023】光増幅器10は、図2の（B）に示されるように、入力ポート18と出力ポート20の間に前段増幅器22と後段増幅器24とをカスケード接続して構成されている。分散補償器DCは前段増幅器22と後段増幅器24の間に設けられる。

【0024】光受信機4は、図2の（C）に示されるように、光ファイバ伝送路6の第4区間8（#4）に接続される入力ポート26からの光信号を増幅するプリアンプ28と、増幅された光信号を電気信号に変換するO/E（光/電気）変換器30とを含む。分散補償器DCはプリアンプ28とO/E変換器30の間に設けられる。

【0025】各分散補償器DCは、区間8（#1～#4）の各々の長さの予め定められた範囲に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を提供する。分散値の設定例については後述する。

【0026】図3の（A）、（B）及び（C）はそれぞれWDM伝送における光送信機2、各光増幅器10及び光受信機4の構成例を示すブロック図である。光送信機2は、図3の（A）に示されるように、波長 $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$ の光信号を出力するE/O変換器32と、これらの光信号を波長分割多重してその結果得られたWDM信号光を出力する光マルチプレクサ（MUX）34と、WDM信号光を接続するカスケード接続された前段増幅器36及び後段増幅器38とを含む。WDM信号光は出力ポート40から光ファイバ伝送路6の第1区間8（#）に送出される。分散補償器DCは前段増幅器36と後段増幅器38の間に設けられる。各E/O変換器32は伝送データに対応する電気信号を光信号に変換するものである。E/O変換器32は光マルチプレクサ34の対応する数の入力ポートに接続される。光マルチプレクサ34の出力ポートは前段増幅器36に接続される。

【0027】光増幅器10は、図3の（B）に示されるように、入力ポート42と出力ポート44の間にカスケード接続された前段増幅器46と後段増幅器48とを含む。分散補償器DCは前段増幅器46と後段増幅器48の間に設けられる。

【0028】光受信機4は、図3の（C）に示されるように、光ファイバ伝送路6の第4区間8（#4）に接続される入力ポートからのWDM信号光を増幅する前段増幅器52及び後段増幅器54と、増幅されたWDM信号光を波長 $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$ の光信号に分けるための光デマルチプレクサ（DMUX）56と、これらの光信号をそれぞれ電気信号に変換する複数のO/E変換器58とを含む。

8とを含む。分散補償器DCは前段増幅器52及び後段増幅器54の間に設けられる。光デマルチプレクサ56の入力ポートは後段増幅器54に接続され、光デマルチプレクサ56の複数の出力ポートはそれぞれO/E変換器58に接続される。

【0029】1チャネル伝送及びWDM伝送の各々においては、必要に応じて前段増幅器及び後段増幅器を組み合わせている。この場合、前段増幅器として比較的低雑音のものを用い、後段増幅器として比較的高出力のものを用いることによって、分散補償器の損失に起因する雑音指数の低下を防止し且つ所要の高出力を得ることができる。また、WDM伝送のための光送信機及び光受信機の各々において、前段増幅器及び後段増幅器を組み合わせているのは、そうすることにより利得の波長特性をフラットにするのが容易だからである。

【0030】図4は各区間8として使用することができる光ファイバの分散特性を示すグラフである。縦軸は分散( $\text{ps}/\text{nm}/\text{km}$ )、横軸は波長( $\mu\text{m}$ )を表している。

【0031】各区間8として一般的な石英系のシングルモードファイバ(SMF)を用いた場合、その零分散波長は概ね $1.3\mu\text{m}$ である。この場合、零分散波長よりも長い波長の光信号に対しては、異常分散領域となり、分散は正の値をとる。また、零分散波長よりも短い波長の光信号に対しては正常分散領域となり、分散は負の値をとる。

【0032】各区間8としてSMFを用いる場合、損失を最小限にしてその区間をできるだけ長くするために、光信号の波長はSMFにおいて最低損失を与える

1.  $55\mu\text{m}$ 帯(例えば $1.50\sim1.60\mu\text{m}$ )に設定されるので、その光信号に対しては常に異常分散領域となる。従って、全ての区間がSMFからなる場合には、各区間毎に分散補償を行なうことが望ましい。その場合における分散補償量の分配等に関する設定例については後述する。

【0033】各区間8として分散シフトファイバ(DSF)を用いた場合、その零分散波長は概ね $1.55\mu\text{m}$ である。零分散波長よりも長い波長を有する光信号に対しては異常分散領域となり、分散は正の値をとる。また、零分散波長よりも短い波長を有する光信号に対しては正常分散領域となり、分散は負の値をとる。

【0034】DSFの最低損失を与える波長も概ね $1.55\mu\text{m}$ に等しいので、光信号の波長は $1.55\mu\text{m}$ 帯に設定される。従って、光信号の実際の波長とDSFの零分散波長との相対的関係に従って、異常分散領域になるか正常分散領域になるかが決定される。しかしながら、光信号の波長が $1.55\mu\text{m}$ 帯に設定されている限りにおいては、異常分散領域及び正常分散領域のいずれであったとしてもその区間の分散値( $\text{ps}/\text{nm}$ )は十分小さいので、DSFからなる区間については分散補償は不要であるかもしれない。つまり、DSFからなる少なくとも1つの区間とSMFからなる少なくとも1つの区間とが混在している場合には、DSFからなる区間についての分散補償器の適用を省略することができる可能性があるのである。そのような例についても後述する。

【0035】

【表1】

区間の距離 (km)	分散補償量( $\text{ps}/\text{nm}$ )		
	光送信機	光増幅器	光受信機
0~20	-600	-200	-200
20~40		-400	
40~60		-700	-600
60~80		-1000	

【0036】表1は、図1に示される区間8(#1~#4)の全てがSMFからなる場合における各分散補償器DCの分散補償量の設計例を説明するための表である。この例では、光送信機2の分散補償器DCの分散値(単位は $\text{ps}/\text{nm}$ 、以下同様)は-600に定められている。光増幅器10(#1~#4)及び光受信機4の各々の分散補償器DCの分散値は、すぐ上流側の各区間8の距離(単位はkm、以下同様)に応じて設定される。例えば、区間8(#1)の距離が20未満であれば、光増幅器10(#1)の分散値は-200であり、距離が20以上40未満であれば分散値は-400であり、距離が40以上60未満であれば分散値は-700であり、距離が60以上80未満であれば分散値は-1000で

ある。また、光増幅器10(#2)の分散補償器DCの分散値も区間8(#2)の距離に応じて同じように設定され、光増幅器10(#3)の分散補償器DCの分散値も区間8(#3)の距離に応じて同じように設定される。光受信機4の分散補償器DCの分散値は、区間8(#4)の距離が40未満であれば-200であり、距離が40以上80未満であれば分散値は-600である。

【0037】本実施形態によると、光ファイバ伝送路6のトータルの分散値を容易に許容範囲内に収めることができるので、分散に起因する波形劣化を抑制して伝送品質を高めることができる。また、各区間8の距離は予め定められた範囲(この例では0~80)内にあるので、

各光増幅器10により伝送路損失を容易に補償することができる。また、各光増幅器10の出力パワーを所定の値以上にする必要がないので、非線形効果に起因する波形劣化を抑制して、伝送品質を高めることができる。更に、各分散補償器DCは、各予め定められた距離の範囲(0~20, 20~40, 40~60、又は60~80)に応じて決定される段階的な複数の分散値から選択された分散値を提供するようにしているので、分散補償器DCのメニュー化が可能である。つまり、分散補償器DCの分散値として数種類のものを用意しておき、それ

を各区間8の距離に応じて選択的に使用することで、容易にシステムの構築を行なうことができる。すなわち、分散補償器の設計が容易な光伝送のための方法及びシステムの提供が可能になる。

【0038】次に区間8(#1~#4)の少なくとも1つにDSFが適用されている場合における分散補償量の設計例について説明する。

【0039】

【表2】

DSFの適用区間	光送信機	分散補償量 (ps/nm)			光受信機	
		光増幅器				
		#1	#2	#3		
第1区間	0	-600	-1000	-1000	-600	
第2区間	-600	-800	0	-1000	-800	
		-1000	-800	0		
第3区間						
第4区間			-1000	-600	0	

【0040】表2は、図1に示される区間8(#1~#4)の1つの区間にDSFが適用され他の3つの区間にSMFが適用されている場合における分散補償量の設計例を説明するための表である。第1区間8(#1)にDSFが適用される場合には、光送信機2の分散補償器DCは省略され、光増幅器10(#1)の分散補償器DCの分散値は-600であり、光増幅器10(#2)の分散補償器DCの分散値は-1000であり、光増幅器10(#3)の分散補償器DCの分散値は-1000であり、光受信機4の分散補償器DCの分散値は-600である。

【0041】第2区間8(#2)、第3区間8(#3)及び第4区間8(#4)のいずれかにDSFが適用される場合には、光送信機2の分散補償器DCの分散値は-600である。第2区間8(#2)にDSFが適用される場合には、光増幅器10(#1)の分散補償器DCの分散値は-800であり、光増幅器10(#2)の分散補償器DCは省略され、光増幅器10(#3)の分散補償器DCの分散値は-1000であり、光受信機4の分散補償器DCの分散値は-800である。第3区間8(#3)にDSFが適用される場合には、光増幅器10(#1)の分散補償器DCの分散値は-1000であり、光増幅器10(#2)の分散補償器DCの分散値は-800であり、光増幅器10(#3)の分散補償器DCは省略され、光受信機4の分散補償器DCの分散値は-800である。第4区間8(#4)にDSFが適用される場合には、光増幅器10(#1)の分散補償器DCの分散値は-1000であり、光増幅器10(#2)の分散補償器DCの分散値は-1000である。

10(#3)の分散補償器DCの分散値は-600であり、光受信機4の分散補償器DCは省略される。

【0042】尚、各区間の距離は例えば70に設定され、望ましくは各区間の距離はSMFだけが適用される場合と同様に予め定められた範囲(0~80)内にあることが望ましい。

【0043】このように、本実施形態では、区間8(#1~#4)のいずれか1つにDSFを適用しているので、DSFからなる区間の一端に対応する分散補償器DCを省略することができる。従って、少ない分散補償器の使用にも係わらず、光ファイバ伝送路6のトータルの分散値を許容範囲内に収めることが容易になり、分散に起因する波形劣化を抑制することができ、伝送品質を高めることができる。また、前述と同様に分散補償器DCのメニュー化が可能になるので、分散補償器の設計が容易な光伝送のための方法及びシステムの提供が可能になる。

【0044】表2による説明ではDSFが1つの区間だけに適用されているものとしたが、2つ以上の区間にDSFが適用されていてもよい。

【0045】このように、区間8(#1~#4)の少なくとも1つの区間にDSFを適用することによって、DSFが適用される各区間の少なくとも一端に対応する分散補償器を省略することができる。

【0046】図5は本発明により得られる分散マップの例を示す図である。縦軸は分散値、横軸は光ファイバ伝送路6上の位置又は距離を示している。ここでは、表2において、DSFが第2区間8(#2)に適用されている場合における分散マップが示されている。前述したよ

13

うに光増幅器 10 (#2) の分散補償器 DC は省略されているが、本発明の適用により光ファイバ伝送路 6 のトータルの分散値が許容範囲内に収まっていることがわかる。

## 【0047】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によると、分散補償器の設計が容易な光伝送のための方法及びシステムの提供が可能になるという効果が生じる。本発明の特定の実施の形態による効果は以上説明した通りであるのでその説明を省略する。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】図1は本発明による光伝送のためのシステムの実施形態を示すブロック図である。

【図2】図2の(A), (B)及び(C)はそれぞれ1チャネル伝送における光送信機、光増幅器及び光受信機

14

の構成例を示すブロック図である。

【図3】図3の(A), (B)及び(C)はそれぞれWDM(波長分割多重)伝送における光送信機、光増幅器、光受信機の構成例を示すブロック図である。

【図4】図4は本発明に適用可能な光ファイバの分散特性を示すグラフである。

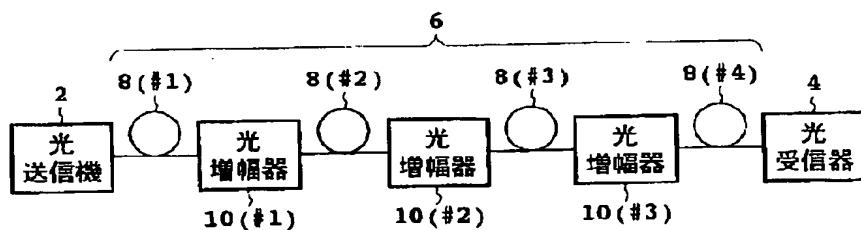
【図5】図5は本発明により得られる分散マップの例を示す図である。

## 【符号の説明】

10 2 光送信機  
4 光受信機  
6 光ファイバ伝送路  
8 区間  
10 光増幅器  
DC 分散補償器

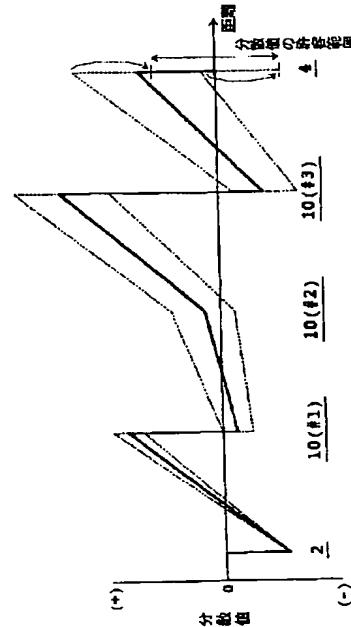
【図1】

## 本発明によるシステムの実施形態を示すブロック図



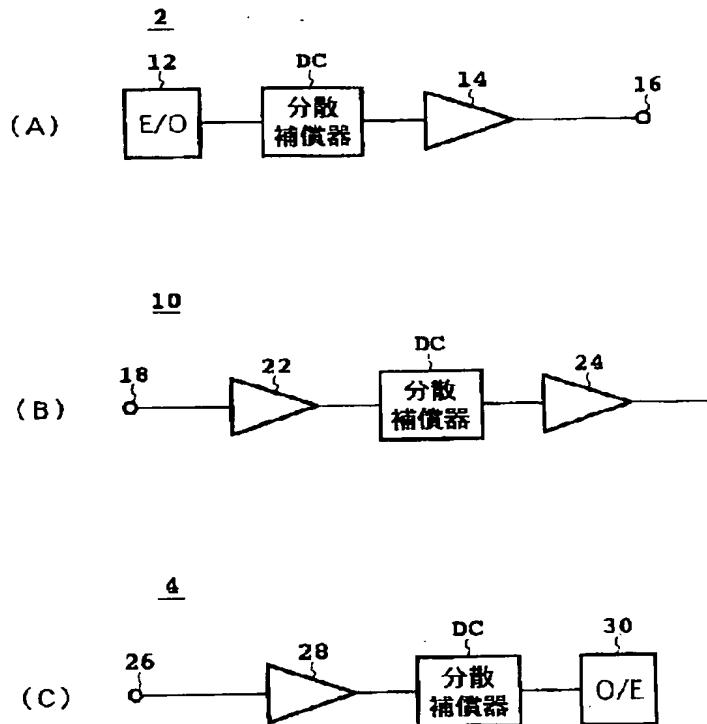
【図5】

## 本発明により得られる分散マップの例を示す図



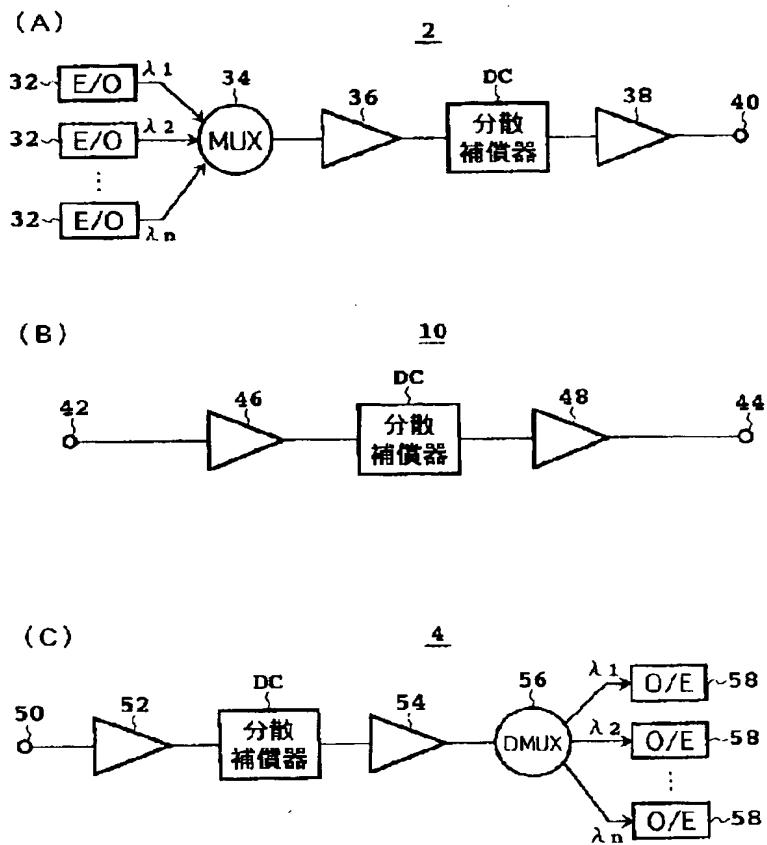
【図2】

1チャンネル伝送における光送信機、  
光増幅器及び光受信機の構成例を示すブロック図



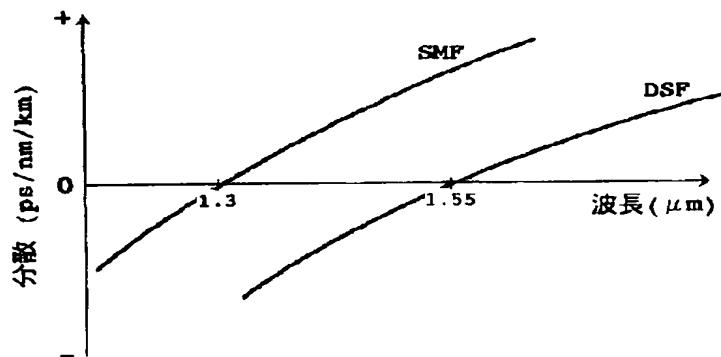
【図3】

WDM伝送における光送信機、  
光増幅器及び光受信機の構成例を示すブロック図



【図4】

## 光ファイバの分散特性を示すグラフ



---

フロントページの続き

(72)発明者 河崎 由美子

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番  
1号 富士通株式会社内

(72)発明者 岡野 悟

北海道札幌市北区北七条西四丁目3番地1  
富士通北海道ディジタル・テクノロジ株  
式会社内  
F ターム(参考) 5K002 AA06 BA02 CA01 CA13 FA01